



Handwritten Japanese text on a vertical label, including characters such as 不, 作, 志, わ, け, う, 中, け, ち, 屋, 九.

Small rectangular sticker with handwritten numbers: 1087 and 9, and a red stamp with the number 12.





門 12
1087
巻 9

く 初め

志ありと

わけあり

さしあり

しりあり

ありあり

うきあり

わけあり

ありあり

ありあり

以上

源氏物語

巻之九十

宇治十帖



うむそくはまはらつわらふくはれす八重
 久の母はたき原のむらめく冷泉院ハ才十此
 宮なりきまよはしうくく一財大和乃法
 孫冷泉院よりいふまはらつわらふく曲たのく
 おもひあてははのまもりそまらつては案
 院よきまはらつてはのまもりそまらつては案
 て京のまもりへゆけられたるまはらつては案
 まつふたり

ち 娘 くらう十九女より大和乃

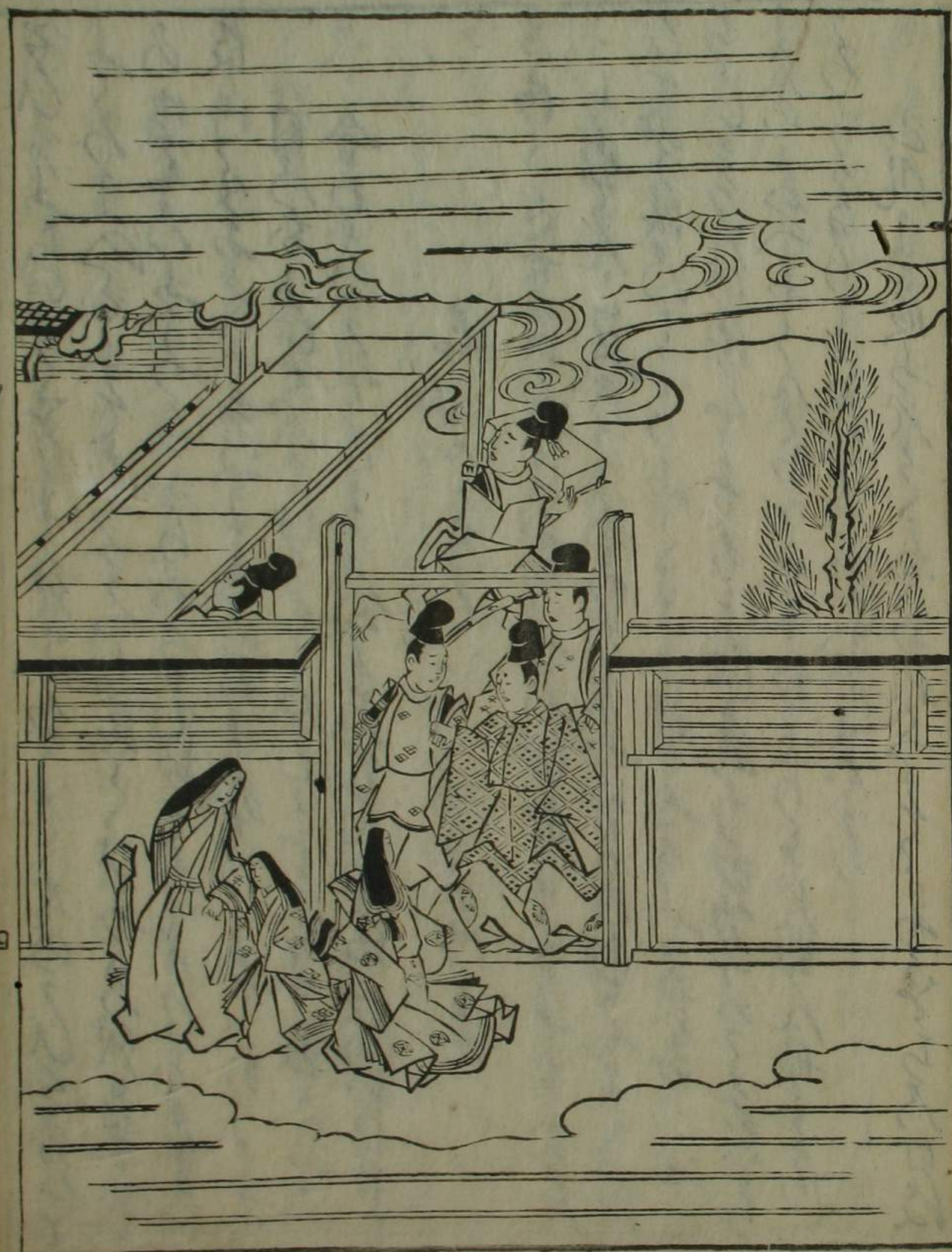
八乃まおのむむをぬ二人ありき使おれあは人臣のむむ
 めもて海まはらうせまひくたれはまの母もももて
 りんとあがせどはあまのむむとゆつらんまもりて年
 とるまもりまのむむとゆつらんまもりて年
 ちらりまもりてあまもももてまのむむとゆつらんまもり
 多しゆゆれんまのむむとゆつらんまもりて年
 一基うらなつてまもりてあまもももてまのむむとゆつらんまもり
 池乃あまもももてまのむむとゆつらんまもり
 おもひあてははのまもりそまらつては案
 院よきまはらつてはのまもりそまらつては案
 まつふたり

定後より山里のまきから降りてひまわりは海にむき
つねあがりくまをく今い山ぐるりありはくすまうつ山
里よりあふきのすまきなりんかといふひまわり
いぢぶらんと泉流もさまりて八のさなりくさくあ
海に物あけ四さふまうつく婚まうつとさうくさ
てまうつあさひ乃海にさなりかたりヤま
うりの中を海あよりくして親をあたなりよ物さ
あふさうかまひさみさあまはさあて八のさ
世といふ山にうみもかき川を流るやうなる
かま流るる心とびとあめられた世流ら山に宿とさ
くかり中をさくかきさすてあまんとさうま
みらの程あくる海流

山ありまたね本家のあうらとわやうらり我流か

ちうくさう程よひとのねゆれあとなしくはも八のさ
いあちなり乃寺あくと七日の程あさひまふ海流もさ
まのあふはひまひく塩乃ひさしよりえまふ月あ
さかんとさそれすまれあけひさりかえりらね
らまきくびんとさあまよささてさくわらうつ月乃あ
りたてあつてあめられた海さうてあまうつて月
さまのひつがりなりそをあらとあけゆのそそれら
う海にさくならくげく今御りいあまのうらり日
とんものうそまくれ海にあまひ及びひまかりか
とそあまひひらけらひ今さうともものうらりくづり
うかりのみものまふよあまひうらつげよあさ流らさ
わやうまうのありなりとさあやうな後りれな身た
わく許あ世れ中れとまみかむもわねとく福ん
あつらる海らされかたあつらるあまてわら流る

けえあつてあやとりのよけ年のわら木のおれくろひじとあ
 ちく昔れ物ころりもやころりうろたわあ中きことやど
 ころりもころり海りもれと人あちけしけのころり又
 ころりもころりあふろり。
 物やをあらとるむとろりひあおれおの山あきあえり
非 雲れあつてねらけらと結あいのいころりあああろりか
あ 橋娘乃らあくらとたをせれとさあろつふ神もあえり
非 ありころりちの川あさ物あのおつてや神あつてころりん
 系ららあむくあれとあろりよあまころり清ところりあ
 人よろせとくころりあふ又の目ひころりごやうの物山乃橋
 ころりあねとけさあろりつころりあろりあろりあああ
 してあ後乃ころりあろりあ十月ああろりのはろり
 うろりあろりあろりのあろりあろりあろりあろりあろり
 てぎろりあろりあろりあろりあろりあろりあろりあろり



とひまふらひさうとさうたふらわうがたのうびらとたを
あつらふよふとてまつりつるり路をいふらひたんたを
のしとらふらうつとてつりわらうもあそりくたれとたあふ
及侍のあふくもた敷よもあわとれあうとてあつらふ
目乃あよばせだそむいあうらそそあつらふあつらふ
命あつらふたあつらふ命あつらふあつらふ松のあひすを

あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

きあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
とらあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
ひてあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
らひあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
よふあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

山凡ふあつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

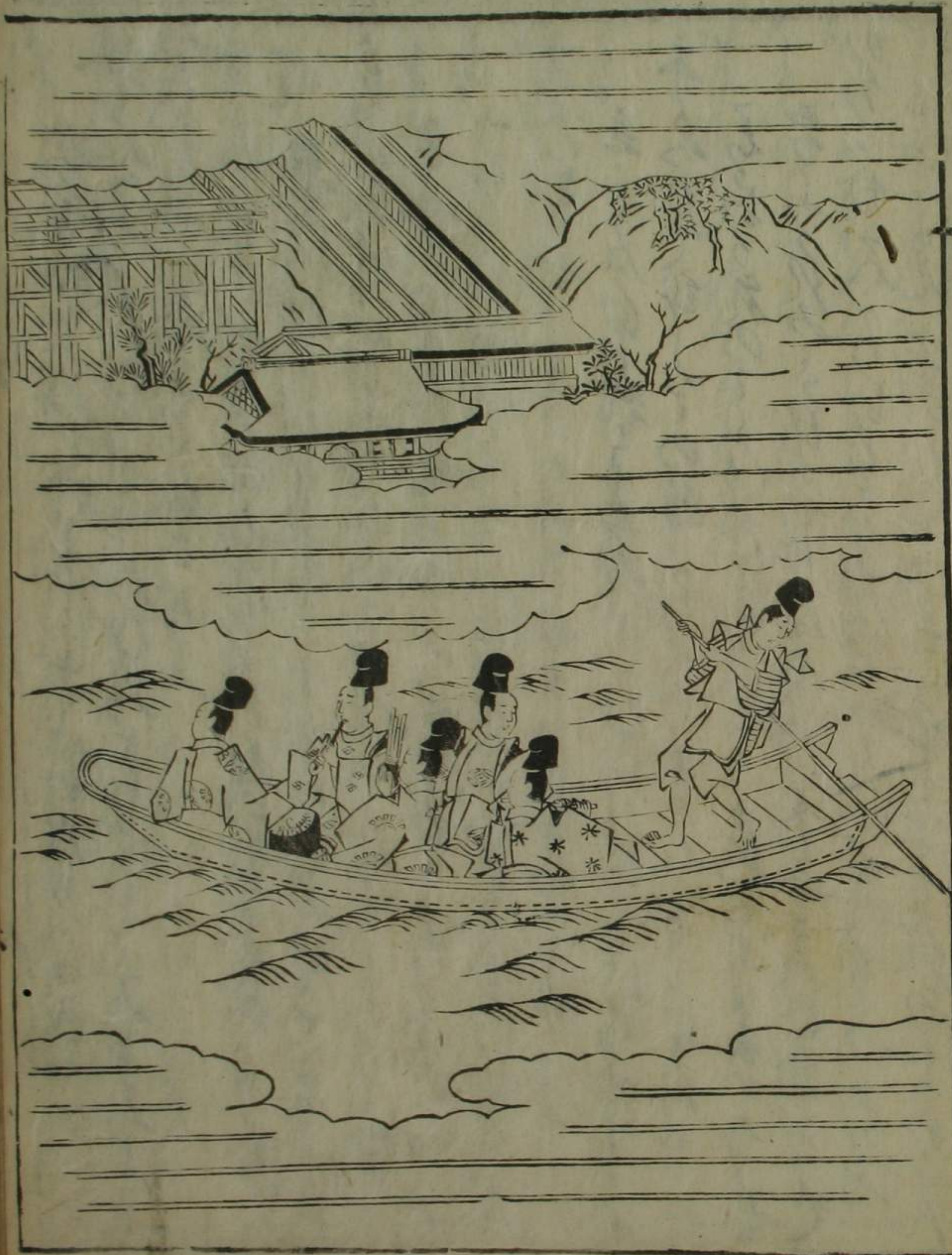
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

中

山橋あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ

あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ
あつらふとてあつらふとてあつらふとてあつらふ



心もさへさるひつらひつらとて
 ねんを侍のあはれなきりてけさより
 せまやそはしそと錦のわつしそり
 二日ろありあらそそめそあけて
 今ありてはむおろつりよせまひ
 あさやう〜海もつらららんた
 今あまのあたらとていん今
 かりや中細きまひしては
 ともあや秋の山里のあふれ
 太夫 海のとてあつてふれ
 船のりたなまよるせり麻の
 他のももさるやうわらり
 だもつとてゆ〜とてあれた
 ありきつらりあらしとてそ
 太夫 冬もあらはれぬの中

秋葉のなるを新よししくば世にうつりゆく
年はらもよわわちなり乃ひらなりすこそそま
つしししとぬさしぬりあ

中巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

中巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

ゆしゆかありてゆしゆかありてゆしゆかありて

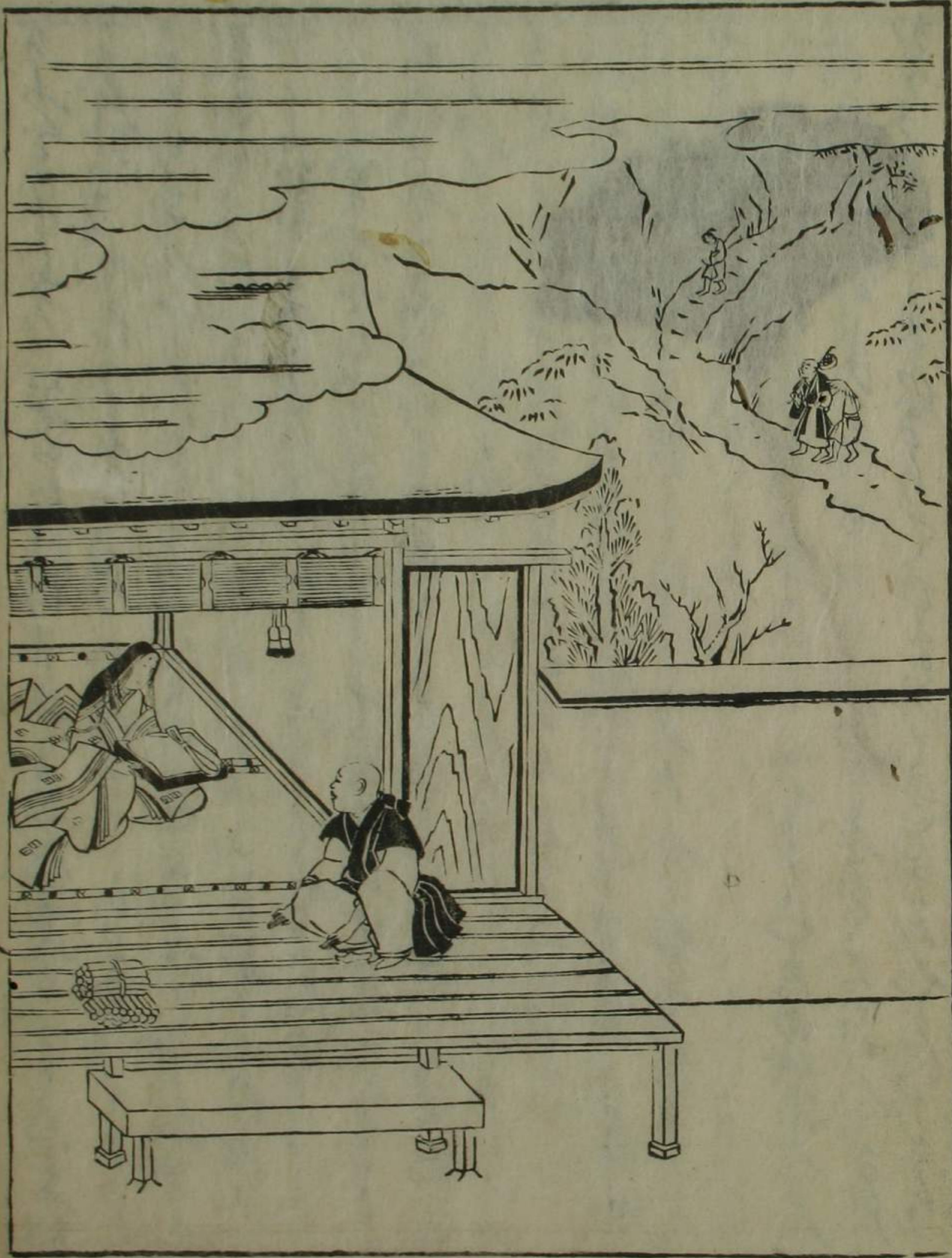
あけまゆれ かつらサニカ

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

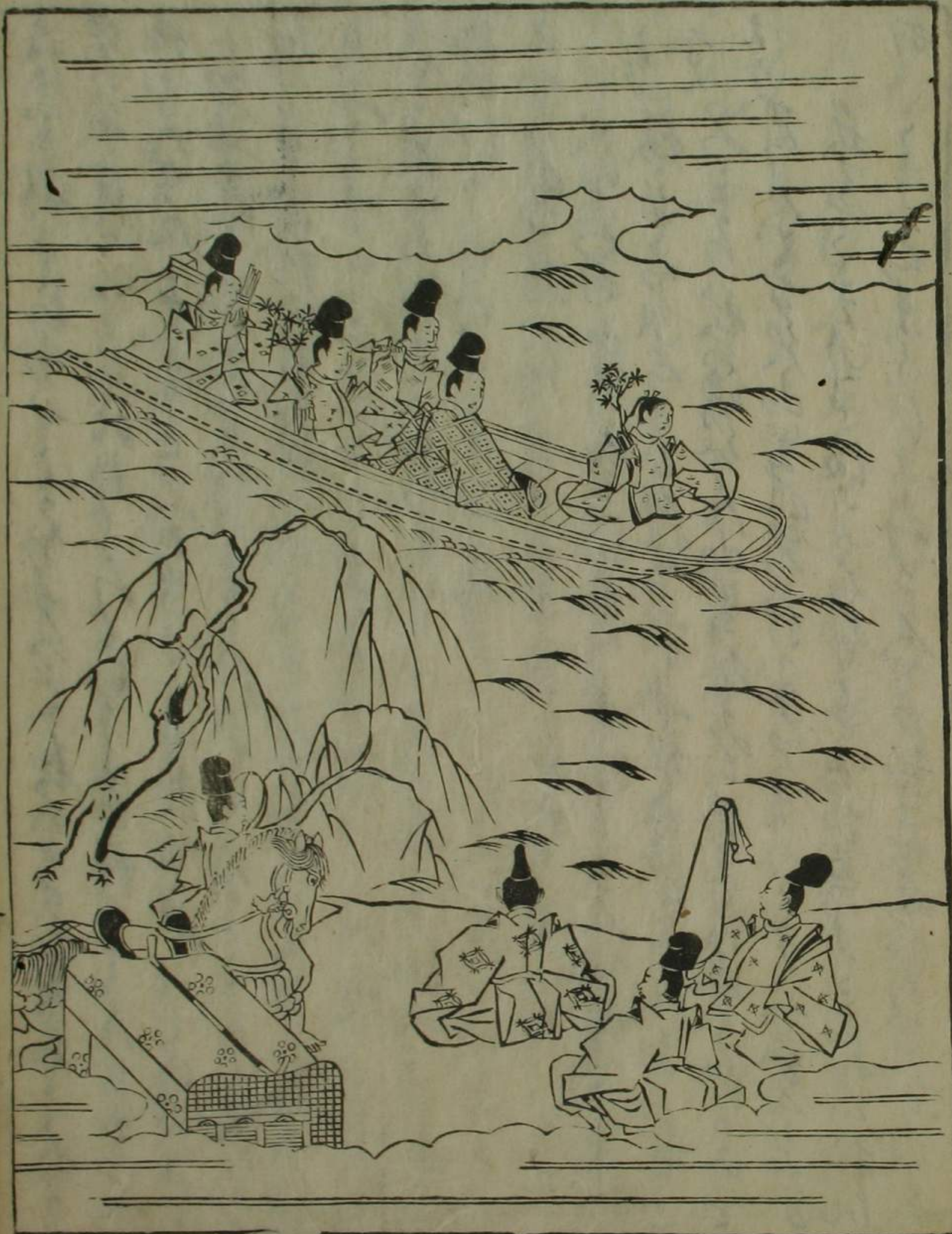
大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも

大巻 吾のくそ山あけたたしなり松の香もゆもか
つらありて自ま乃ゆもゆもゆもゆもゆも



一もい佛のあやうの中此をわけてまあるとわさるあふ
 ちらるわまうたれたあういふとらんそ入まふと屏
 凡とあけと金ひあうらう本とたれ乃はるる
 とそかりとあよまひふとつひる世の世物と
 一財といふとあうとあうとあうとあうとあうと
 かねたえとあうとあうとあうとあうとあうと
 うら山屋のあうとあうとあうとあうとあうと
 世もあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 大なる中とあうとあうとあうとあうとあうと
 かく九月のあうとあうとあうとあうとあうと
 路のいふとあうとあうとあうとあうとあうと
 中とあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 とそ中とあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 さあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうと
 けあうとあうとあうとあうとあうとあうとあうと

わのあはれはせまのつははねし申えはれせもはよせ
 るうとうのこをまねのう海ひさり三日のわらわ
 りらあまの中細きなよりみきびつとあわなとをて
 かしらなとてなれとてあはれおとつらなけす
たま たま こそをえらりりあはれおたあはれ神をけしと
 ありまののりりては母中ませのまかか
 うりありせとつらあまのまかか
 兼あけてありとつらあはれありん
 るひとありとつらあまのせのまかか
 せまひとありとつらあまのせのまかか
 兼あはれとつらあまのせのまかか
 申たん抽あはれに橋娘のわらわ
仲 たせの親おとつら橋のわらわ
 物守のとうつらあまのせのまかか
 九月のわらわとつらあまのせのまかか



あつた ちよとあつた 海の川よとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

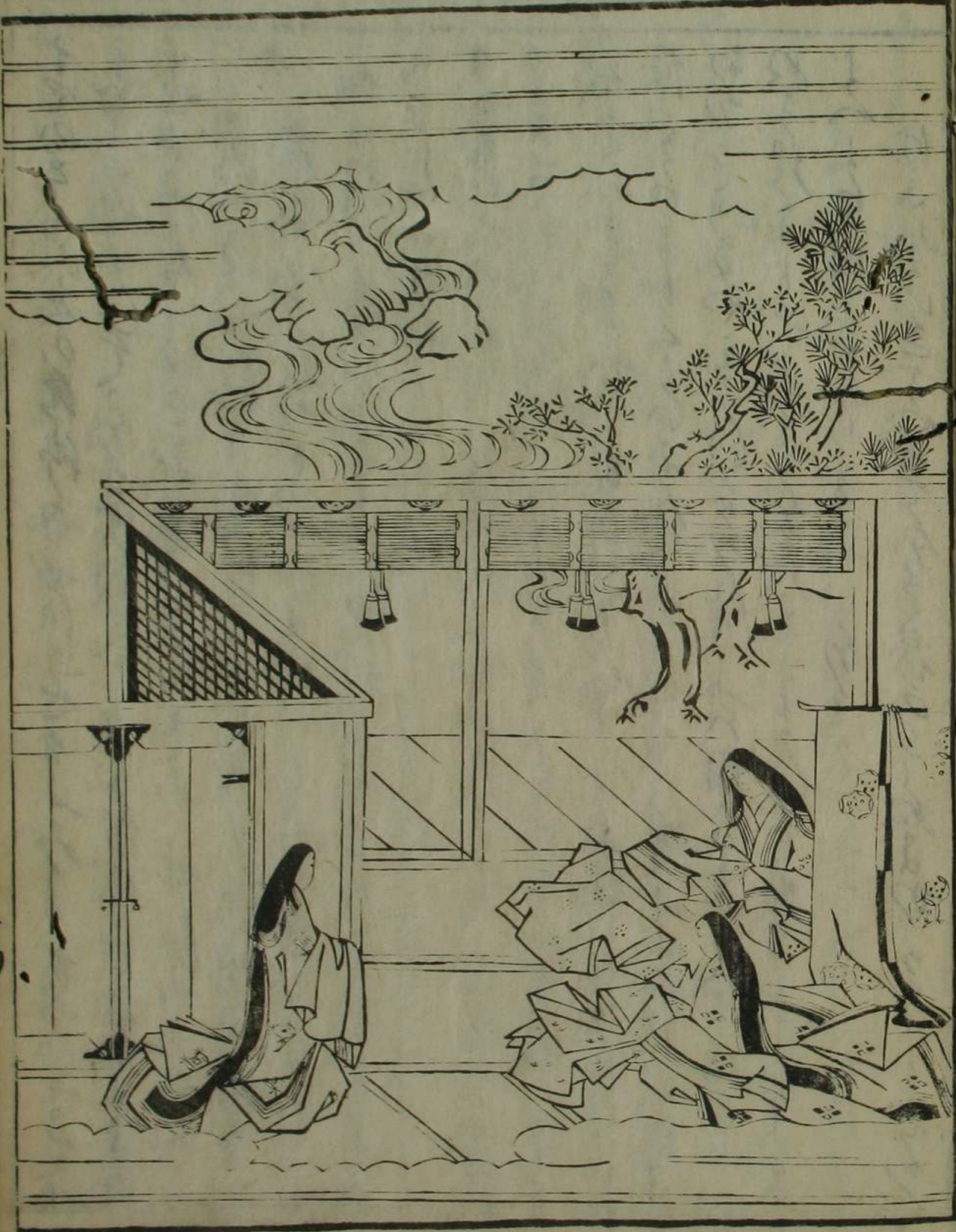
あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

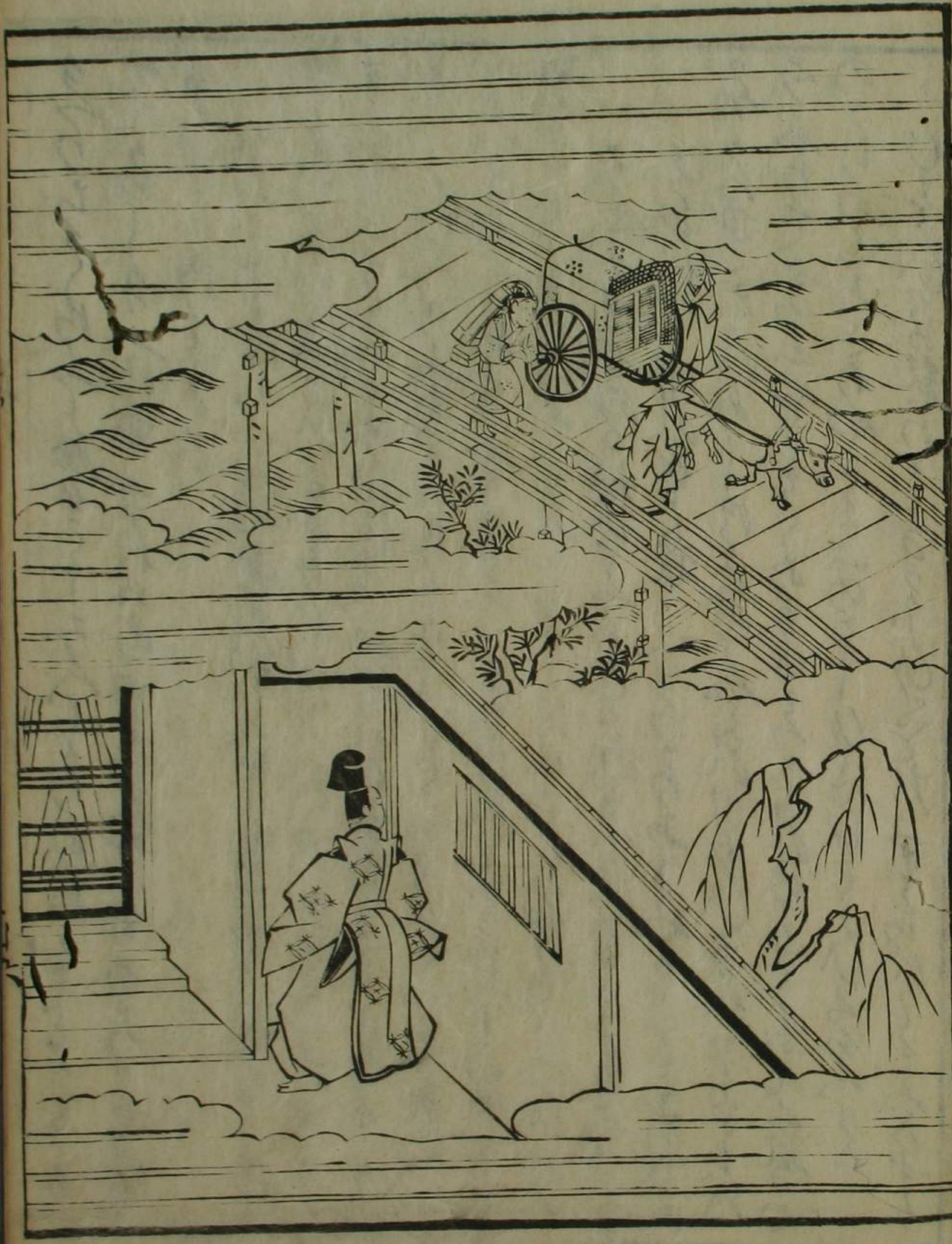
あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた

あつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた ちよとあつた



大なる所なるは物と日とにりてあきあき然るる事
 こゝろなきはいふ所ぬはあかりたるものなる日のお
 りてあかりたるありままする事つ終り寧ろ中折るる
 さはけりてさしひさしひさしありあふるるあせりぬる
 つかりよわし

おはに世のゆきもはせれりてみるはあきあき
 物と日とにりてあかりたるものなる日のお
 りてあかりたるありままする事つ終り寧ろ中折るる
 さはけりてさしひさしひさしありあふるるあせりぬる
 つかりよわし



このうらみはせんばの娘（うらみ）とてくらん^{せんば}の娘（うらみ）の
ひうられせんばの娘（うらみ）とてせんばまうとてた今（うらみ）
もありのとて車（うらみ）あり入りあつとらつとて（うらみ）
かたやうにうらむとてせんばの娘（うらみ）のうらみの
うらむうらむとてせんばの娘（うらみ）のうらみの
うらむうらむとてせんばの娘（うらみ）のうらみの
うらむうらむとてせんばの娘（うらみ）のうらみの
うらむうらむとてせんばの娘（うらみ）のうらみの
うらむうらむとてせんばの娘（うらみ）のうらみの

[Faint, mostly illegible handwritten text within a rectangular border]



て

